

道路の将来ビジョン 骨子(案)

I 趣旨

「福井県長期ビジョン」の示す将来像の実現に向けて、今後の道路整備の方針を示す「道路の将来ビジョン」を改定する。(現行ビジョン：平成16年1月策定)

○背景

- 「福井県長期ビジョン」策定(令和2年7月)
- 北陸新幹線の2023年春の福井・敦賀開業、その後切れ目ない大阪までの延伸
- 高速交通網整備の進展(舞若道全線開通、中縦道(永平寺大野道路)開通)
- 激甚災害の頻発化(H16年7月豪雨、H30年2月豪雪、H30年7月豪雨)
- 道路施設の老朽化(県管理橋梁の4割強が高経年化(50年超)→20年後には約8割)
- 人口減少・少子高齢化(20年後:約64.7万人(ピーク時から22%減)、高齢化率37.2%)

○課題

- 中部縦貫自動車道のミッシングリンクの解消
- 舞鶴若狭自動車道の暫定2車線の解消
- 道路施設の老朽化対策
- 子どもや高齢者など歩行者の交通安全の確保
- 歩行者や自転車の快適で心地よい通行空間の確保
- 道路へのニーズの多様化を受けた、県民や民間事業者と連携した道づくり

○目標年次 2040年

改定のポイント

- 道づくりの基本方針の項目分類における明確化(強靱化と持続性、魅力ある道路空間の創出を項目立てて追加)
- 命と暮らしを守る安心安全な道づくりへの対応(災害、コロナ禍における経済産業の支援、持続可能なインフラ機能の確保)
- 道路に求められる機能の多様化への対応(道路空間の利活用、歩行者、自転車中心の道づくり)
- デジタル社会への対応(ICT技術の活用、自動運転車の実用化など)

Ⅱ 道づくりの基本方針

1 広域交流の拡大 ～広くつながるみちづくり～

- 日本海側の中央に位置し、太平洋側にも一番近接しているという地理的優位性
- アジア大陸に面し、関西、中京の二大都市圏に近く、敦賀港を拠点とした日本海側の玄関口の役割
- 大都市圏とのネットワークを強化し、交流・物流の拡大につながる道づくりの推進



(1) 国土軸を形成し、県土の骨格となる広域ネットワークの構築

- 日本海国土軸を形成し、大都市圏をはじめとする広域圏を結ぶ高速性、信頼性、安定性の面で優れている高規格幹線道路の整備
- 高規格幹線道路と一体となって広域ネットワークを形成する道路網の構築

【主な道路施策】

- 中部縦貫自動車道の整備
- 暫定2車線となっている舞鶴若狭自動車道など高規格幹線道路の4車線化
- 広域ネットワークを形成する福井外環状道路など規格の高い道路の整備

(2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの強化

- 県土を東西南北に開き、県境をまたぐ道路整備の促進
- 隣接府県との幅広い交流・連携の活性化

【主な道路施策】

- 国道8号や国道27号など広域幹線道路の整備
- 国道417号(冠山峠道路)や国道303号など県境をまたぎ広域幹線道路をつなぐ道路の整備

2 産業・観光の活性化 ～ふくいをみがくみちづくり～

- 北陸新幹線の2023年春の福井・敦賀開業、その後切れ目ない大阪までの延伸
- 中部縦貫自動車道の全線開通
- 大交流化を押し進めるチャンスを迎え、市場開拓・販路拡大、観光誘客など産業経済の活性化や県内外の観光促進につながる道づくりの推進



(1) 産業経済活動の支援

- 産業経済活動を支援し、企業立地や立地企業の規模拡大の促進につながる道路の整備
- 福井港、テクノポート福井など産業拠点と高規格幹線道路をつなぐ道路の整備
- 市街地の幹線道路の渋滞を緩和し、経済的損失を抑制する道路の整備

【主な道路施策】

- 福井港丸岡インター連絡道路など企業誘致や産業活性化に資する道路の整備
- 県道福井森田丸岡線など渋滞の緩和を図る道路の整備

(2) 周遊・滞在型観光の促進

- 観光の活性化を促進する道路の整備
- 観光地等を結ぶ道路や、広域周遊観光ルートを形成する道路の整備
- 道の駅など観光拠点となる施設の充実およびサービスの向上
- 観光地の魅力を高めるため、景観・美観の向上

【主な道路施策】

- 国道417号（冠山峠道路）など広域周遊観光ルートを形成する道路の整備
- 道の駅、SA・PA等の施設の充実化やサービスの向上
- 観光地へのアクセス道路の整備
- シェアサイクルと連携し、気軽に楽しめるサイクリングコースのネットワーク化
- 無電柱化による景観の向上

3 幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支えるみちづくり～

- 人口減少・高齢化が進む中、いつまでも安心して暮らすことができる地域づくり
- 通勤、通学、買い物など日常生活が快適となる道路ネットワークの充実化
- 生活道路における安全・安心の確保
- 鉄道やバスなど公共交通機関との連携強化
- 誰もが容易に移動できる社会の基盤づくりの推進



(1) 快適な生活をサポート

- 通勤、通学、買い物など日常生活を快適にし、住みやすい環境基盤の整備
- 地域間の交流・連携を強化する幹線道路整備の促進

【主な道路施策】

- 主要地方道坂本高浜線、国道 158 号バイパスなど県内の地域間を連絡する道路の整備
- 国道 365 号の 4 車線化など、通勤等を快適にする道路の整備
- 自転車通勤を促進する道路空間の整備

(2) 誰もが安全・安心

- 安全・安心に暮らせる環境、基盤づくりの推進
- 交通安全対策や、無電柱化等による安全で快適な通行空間の確保
- 生活道路における歩行者等の通行空間の確保
- 誰もが使いやすいデザインの道路空間整備の促進

【主な道路施策】

- 歩道設置や段差解消の整備
- 身近な生活道路や通学路等の交通安全対策

(3) 公共交通機関との連携強化

- 鉄道駅や道の駅などを拠点とした公共交通ネットワークの強化
- 駅から観光地や地域の拠点等への移動を容易にするとともに、高齢者等の移動手段として利用できるよう、交通ネットワークの形成

【主な道路施策】

- 鉄道駅や道の駅などを拠点とした二次交通との連携強化
- 駅や主要施設など拠点となる施設へのアクセス道路の整備

4 県土強靱化と持続性 ～強くてしなやかなみちづくり～

- 頻発・激甚化する自然災害に備え、ヒト・モノ・情報の流れを確保するため、平時・災害時を問わず、道路のネットワーク化や機能向上の推進
- 道路施設の老朽化に対し、予防保全による長寿命化を図り、持続可能な道づくりの推進
- 急速に進展している ICT 技術を活用し、道路施設の管理の高度化・効率化



(1) 大雨・大雪など災害に備えた機能強化

- 近年、頻発化する激甚災害に備え、緊急輸送道路など重要な路線の機能強化
- 災害時におけるダブルネットワークの確保
- 関係機関との連携により幅広く道路に関する情報を共有、一元化し、情報を利用者へ発信

【主な道路施策】

- 重要物流道路や緊急輸送道路等における防災対策
- 災害時の安定的な人流・物流の確保に向けたダブルネットワーク化
- みち情報ネットふくいの利便性向上（隣県の道路情報の提供）

(2) 道路施設の予防保全・長寿命化

- 定期点検による道路施設の健全度を把握し、損傷度合いによる早期補修
- 予防保全へ転換し、道路施設の長寿命化

【主な道路施策】

- 橋梁やトンネルなどの定期点検の実施
- 老朽化する道路施設の予防保全による対策

(3) ICT 技術を活用した道路管理の高度化・効率化

- 新技術の導入による道路施設管理の効率化・高度化
- ICT を活用し、長期かつ有効的に道路施設の機能の確保

【主な道路施策】

- ETC2.0 等によるデータを活用した渋滞対策
- AI 技術を活用した道路管理の効率化
- GPS 搭載の除雪車による作業状況の把握および作業の効率化

5 魅力ある道路空間の創出 ～居心地の良いみちづくり～

- 道路に求められるニーズの多様化に対応した魅力的な道路空間の創出
- 安全・快適な歩行空間の確保や人が集まる道づくり
- 車中心から、人中心への道づくりの推進



(1) 地域のニーズに応じた柔軟な道路空間の創出

- 歩行者・自転車空間を拡大し、賑わいや安らぎが感じられ、行きたくなる・居たくなるような質の高い道路空間の創出
- 歩行者や自転車を優先した、快適な通行空間（緑道）の創出
- 美しさや心地よさが感じられる質の高い道路空間の創出
- 多目的に利用できるよう柔軟な道路整備の推進
- イベントやオープンカフェ等、幅広い道路空間の利活用の推進

【主な道路施策】

- 歩行者・自転車ネットワークや地域のニーズに応じて、道路空間の再配分
- 地域別、時間別に使い分けのできる柔軟な道路空間の整備
- (福井縦貫線など)無電柱化による快適な通行空間の確保

(2) 豊かな景観・環境の創生

- 歴史的なまちなみや優れた自然景観など、周辺の風景に合わせたデザイン性を持った道路空間の創出
- 福井らしい情景が持続できるよう環境の保全
- 地球温暖化など気候変動に対応した環境にやさしい道づくりの推進

【主な道路施策】

- 周辺の風景や街並みに合わせ、デザイン性のある道路空間の整備
- シェアサイクル、次世代環境対応車等への転換を図り、低炭素化による環境負荷の少ない道路環境の創出
- 花植えや、清掃など地域の道守活動の支援・促進

Ⅲ 道づくりの基本的な進め方

1 効率的、経済的な事業展開とストック効果の最大化

(1) 選択と集中による事業展開

- 重要度や必要性を踏まえ、適切に事業評価を行い、効果的・効率的な事業の推進

(2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制

- 維持管理を含め、長期的な視点でのコストの軽減

(3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

- 定期点検を実施し、予防保全対策による道路施設の長寿命化
- 民間事業者との連携（PPP）や県民との合意形成を図りながら、選択と集中による効果的・効率的かつ持続可能な維持管理の推進

2 県民の参画と協働

(1) 県民とのコミュニケーション

- パンフレットやウェブ等を活用した積極的な情報共有
- 道路の課題や今後の道路のあり方を地域住民と共有し、地域と共に道づくりを推進

(2) 愛着のある身近な道づくり

- 地域住民や民間事業者が主体となった、きめ細やかな道路維持・美化の促進と共に、賑わいや憩いの場として愛着の持てる道路空間を創出

3 情報化技術の活用

(1) 通信技術を利用した情報収集（一元化）と発信による情報の共有化

- ICT等を活用しながら、関係機関との積極的な情報共有、県民等からの道路に関する情報（異状など）の収集を図り、迅速に対応するとともに、これらの情報を一元化し、関係者や道路利用者に発信・共有することで、通行の安全性や利便性を向上

(2) デジタル技術の有効活用

- AI、ICT、5G・6G、ビッグデータ等の最新技術を活用し、渋滞対策、交通安全対策、自動運転車の実用化、維持管理の効率化